

進化し続ける未来創造港湾 東京港 防災・維持管理

防災・維持管理 [骨子]

<p>発災時にも 物流活動を 維持できる 強靱な港</p>	<p>【地震・高潮・暴風対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 耐震強化岸壁、免震クレーンの整備を推進 (新規ふ頭の整備・既存ふ頭の再編整備に合わせた耐震化の推進、ふ頭計画に応じた配置の検討) ○ 橋りょうの耐震化の推進 ○ 港内の無電柱化の推進 ○ ターミナル機能を維持する電力バックアップ機能の確保 ○ ふ頭の浸水・暴風対策の一層の強化 (コンテナの流出・飛散防止、クレーンの逸走防止、電気設備等の嵩上げ、荷役機械等の退避) ○ 発災時における船舶の走錨・衝突等リスク低減策の強化 ○ 発災時における港湾BCP等に基づく的確な対応 ○ 発災時における港湾間の連携による物流網のリダンダンシー確保 ○ ICT等を活用した情報共有及び発信 <p>【特定外来生物・感染症対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ガイドライン等に基づく、関係機関との連携による特定外来生物、新型感染症に対する水際対策の強化
<p>都民の生命と財産 を確実に守る 海岸保全施設 ハード・ソフト 対策の推進</p>	<p>【地震・高潮・暴風対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 海岸保全施設の耐震化・耐水化の推進 ○ 気候変動を踏まえた海岸保全施設の整備 ○ 潮位等の継続したモニタリングの実施 ○ ICT等を活用した情報共有及び発信 ○ 防災船着場を活用した帰宅困難者等の輸送
<p>将来にわたり 港湾機能を 維持する 適切な施設管理 インフラDX</p>	<p>【施設の延命化対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ICT等の高度な技術を活用した施設の適切な予防保全 (港湾施設等にセンサーを設置するなど新たなモニタリング技術導入の検討) ○ 橋りょう・トンネルの長寿命化対策の推進 <p>【工事のICT化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ICTを活用した港湾工事の効率化

物流環境 取りまとめの方向性（案）

進化し続ける未来創造港湾 東京港 物流環境

物流環境

[骨子]

カーボン
ニュートラル
ポートの実現

【環境に配慮した船舶の受入】

- 次世代エネルギー燃料船舶の普及促進（タグボート等の船舶を含む）
- 陸上電源設備やLNGバンカリングなど、船舶への次世代エネルギー（カーボンニュートラルな電力）供給設備の整備
- 水素等の次世代エネルギー供給拠点の検討

【環境に配慮したターミナルの実現】

- ターミナル内施設における次世代エネルギーの利活用の拡大
- 港湾荷役機械や構内トレーラーへの燃料電池の導入
- トレーラー等向け水素ステーションの整備
- 施設の上部を利用した太陽光発電
- SDGs（持続可能な開発目標）の取組やESGへの対応の推進

【荷役効率化による環境負荷の低減】

- ICT技術を活用した搬出入情報の処理（サイバーポート（港湾関連データ連携基盤））
- 共同ゲートの整備、車両待機場の整備 等

多様な輸送
モードの活用

【モーダルシフト】

- 内航船、はしけ輸送（湾内輸送、河川輸送）、鉄道輸送など環境にやさしい輸送モードの利用を促進
- トラックからRORO船・フェリー利用への輸送モードの転換を可能とする施設能力の確保

物流（その他） 取りまとめの方向性（案）

進化し続ける未来創造港湾 東京港 物流（その他）

水域利用

[骨子]

東京港を支える 機能の確保

- 東京港を支える様々な船舶の係留施設を適切に確保する
- 小型船だまりや物資補給岸壁周辺の土地利用の変化や、船舶の次世代エネルギーへの転換、自動運航船などの技術進展の動向を踏まえ、機能や配置のあり方を検討していく

低未利用水域 の活用

- 係留施設背後地の土地利用や取扱貨物量の変化、マリーナの係留需要などの動向を踏まえ、水域の活用を検討していく